「日々の理科」（第 322 号） 2015（H27),-5,20

「カタバミの教材性（３）」

お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋

ユリ科の植物の中には、３つの繁殖方法を持っている種類がある。例えばヤマユリは、種子、球根、それに葉の付け根にできる「むかご」の３つの方法で繁殖する。カタバミも、３つの繁殖方法を持つ。一つ目は種子である。果実の中にはたくさんの種子があり、熟すと衝撃で弾けて、１メートルも飛ぶことがある。

二つめは太い根である。カタバミの根を掘ってみると、束になった茎が合するところに、朝鮮人参のような太い根がある。ここに養分を蓄え、春になると、いち早く芽を出すのだ。春に他の植物よりも先に芽を出すことは、それだけ地面を素早く占有して、光合成をたくさん行えるということを意味する。これは種子のみから芽を出す植物よりも、ずっと有利である。

三つめはちょっと驚きである。実はカタバミは、球根もつくる雑草なのだ。そのことを知って、カタバミの球根を探そうと、子どもたちと根を掘ってみた。

大きな株の根元には球根は見当たらなかったが、周囲の土をほぐしてゆくと、小さな球根らしきものが出てきた。よく観察すると、確かに球根から「根」とカタバミの葉が出ている。間違いなく「カタバミの球根」の発見だ。

種子だけではなく、根にも球根にも養分を蓄え、芽を出す。この多様な繁殖方法が、カタバミの驚異的な繁殖力を支えているのだと実感できた。優れた教材性を持つ野草である。

（左）
「球根から出る芽と根」
（下）
「カタバミの球根の拡大」